

研究支援委員会よりお知らせ

研究支援委員会 委員 姜 民護(関西大学)/野口友紀子(武蔵野大学)



研究支援委員会では、初期キャリア研究者へのサポートを主な目的として大会での企画として初期キャリア研究者研究交流会、またCS-NETの事業としてサロンとリレーエッセイを企画・運営しています。今回、その紹介をおこないます。是非、ご一読いただき、是非のご参加、また今後に向けて、ご意見を頂けたら幸いです。

初期キャリア研究者研究交流会は、初期キャリア研究者に対する研究支援と研究者同士の交流を目的とした企画です。第1回は日本社会福祉学会秋季大会の初日に行います。内容は初期キャリア研究者からの「研究・実践構想報告」のポスター発表とディスカッションで、これまでのスタートアップシンポジウムとは趣を異にし、研究+交流の場となります。大学院修士課程・博士課程在学者、大学院修了おおむね5年以内で研究活動をしている方など初期キャリアの方であれば発表を申し込むことができます。

初期キャリアの皆さん、頭の中に浮かんでいる研究や実践の構想をポスターにまとめてみませんか？ 口頭発表のような完成度は不要です。ポスターを囲んで、幅広いキャリアの参加者と意見交換をしたり助言を受けたりして、ご自分の構想をさらに練り上げ、研究として洗練させましょう。ご自分の研究の発展のために、そして研究者同士の交流の場としてご活用ください。

研究支援委員会CS-NETサロンは、初期キャリア研究者たちの気軽な交流の場です。2022年に第1回のサロンを行ってから約3年が経過しました。2025年9月14日に第6回のサロン「社会福祉学の研究者にできるソーシャルインパクトのやり方を考える」をハイブリッド(対面会場:関西大学梅田キャンパス)で開催します。時間は14時から17時を予定しています。その後、懇親会も予定しています。

皆さんは、研究者の使命にはどのようなものがあると思いますか。多くの方は解決すべき社会問題の真相に迫り、そこから見えてきた「新しい知見」を論文という形で発表することを思い浮かべるかもしれません。それも1例です。今回は「ソーシャルインパクト」という概念に着目します。簡単にいえば、社会に影響を与え、社会をよくしていくことに貢献するという概念です。社会福祉学の研究者として、ソーシャルアクションやNPO法人を立ち上げ、そこを拠点に社会貢献することなどに関心を持つ方もいるでしょう。しかし、その必要性を実感していても方法が分からず、もどかしさを感じている方もいると思います。

そこで、今回は実際にソーシャルインパクトを行っている研究者などを招き、理論はもとより、実践における苦悩や、それに立ち向かうための戦略についてもお話しいたします。その後、交流を行い、社会福祉学の研究者にできるソーシャルインパクトのやり方を皆で考えたいと思います。チラシが完成しましたら、改めてご案内しますので、奮ってご参加ください。